

國民教育家、女子教育家としての フリードリッヒ・フレーベル

ベルリン大學教授 エツァールド、シユブランガー

昭和十二年九月十二日東京女子高等師範學校に於ける講演。

前柏林大學東京語研究所講師 姜世馨氏譯

女子も男子と同じく國家國民に奉仕する義務を有することは尤もな真理である。單純な文化關係に於ては自ら兩性間の分業が生ずる。女子の行くべき道は先づ女子の生物學的制約に依つて明らかである。女子は、妻であり、母であり、主婦である。然るに、もつゝ複雑な文化關係に於ては、兩性間の權利義務の限界問題が考察の對象であり、場合に依つては爭の對象でもある。

西洋各國に於ては、少くも百年前から既に婦人運動が存在してゐることは衆知の事實である。この婦人運動の先驅者達は、婦人は男子の支配から解放されなければならぬし、家庭の束縛から解放されなければならぬといつたやうに、婦人は總て解放されなければならぬといふ婦人の解放要求から運動を始めたので婦人解放運動も稱せられてゐる。獨逸には、

二つの全く相異つた婦人運動の分派があつたが、世界大戦中に始めて兩派が完全に合同した事實が世間に餘り廣く知られてゐない。獨逸に於ける此の婦人運動の兩派を各自の理想に従つて對立せしめて考察するならば、一方は、婦人の權利をもつゝ強調し、他方は婦人の義務をもつゝ強く叫んだ。前者は、佛蘭西革命に由來する「自由、平等」を標語とし、この要求を婦人に敷衍してゐる。このこゝは、實際に於ては、各種の職業を婦人に解放し、大學の女子收容及婦人參政權を意味するものである。それに反して他の一派は、道德的協同體としての家族を國民から出發する、此の一派は雖も、男女の同價性は主張するが、文化的活動に關する婦人の男子に對する同質性を主張するものではない。此の派の婦人運動は、婦人の有する特有性、生物學的、精神的特有才能を以て、國民文化の建設にもつゝ強く協力せんとした。それ故に、家族精神をして國民生活を支持する中心精神たらしめやうとした。就中、婦人が家庭に於て特にその效力を發揮する力を更に進んで、結局は家庭の總體であるこゝろの國民全體に迄擴大しようとしたのである。

此の婦人運動を二つの派に分けて比較對照するこゝは、聊か粗雜の感がする。實際に於ては、この兩派間には、自然に共通した點もあつたし、又融合の出来る點もあつたのである。しかば、この兩派の婦人運動の中には結局一つの婦人獨得の潮流があるが、このこゝが何に依つて確證されるかといへば、それは二人の國民教育思想家にその源を汲んでゐるこゝいふこゝである。即ちペスタロッツチミフレーベルの思想に於てである。

瑞西のペスタロッツチミ獨逸テュリンゲンのフレーベルの生涯は一七五〇年乃至一八五〇年の約百年間に亘つてゐる。恰もこの時代は歐羅巴に於ける家庭生活關係及家庭についての道德的精神が廢頽し始めた頃である。此の廢頽にはまた種々の原因がひそんでゐるが、其中の最も本質的なものを挙げれば、個人主義的自由要求の源行、産業膨脹である。ペスタロッツチミフレーベル、この二人の教育家は、それに對して、母ミ子の本原的關係をその神聖性に、道德的高潮に再び引

上げたのである。この二人は母及妻の教育上の力を恢復し且つ強化しやうとした。家庭の醇化は家庭の健全は、國民健全の樞軸をなすものなりといふ昔からの真理を更に新しくしたのである。しかる故に、この二人は純真なる國民教育家となつたのである。彼等の教育思想は十九世紀に於て、その國境を遙かに越えて全歐米に擴がつた。既にこの事實が教へるやうにこの二人の教育家は、教育には國民精神のみならず、永遠なる人間的力が潜んでゐることを摘發したのである。私は今日、種々の點に於てベスタロッチの直接の弟子であつたところのフレーベルの姿に於て、國民教育、人間教育、及び健全なる婦人運動が如何に相關聯してゐるかを説いて見たい。

フリードリッヒ、フレーベルは幼稚園の創設者として廣く世界に知られてゐる。しかし幼稚園は、彼が種々研究した彼の全教育の中の一部分を意味することを多くの者は忘れてゐる。この思想は、實地的事業の內面的關聯に就いて述べて見たい。フレーベルは、自分の教育學の中心用語の中に「レーベンスアイニグング」(生の合)といふ表現を見出す。フレーベルに依れば、合一調和さるべき生は三つの極を中心にして動いてゐる。即ち母と子、神と自然、幼稚園と國民である。此の三つの極に該當する彼の三大著作の表題を記憶するに、一、母と愛、二、人間教育、三、幼稚園と作業道具に就いての諸論文である。

第一

私は、第二番目に舉げた「神と自然」から始める。といふのは、この點についてのフレーベルの思想の中には彼の全世界觀の輪廓があるからである。フレーベルは、彼がまだ一歳の時に母を亡くしたといふことを我々は記憶しなければならぬ。

彼は少年時代に母の愛を受けることができなかった。そこで、この孤獨な子供は早くから自然と交渉を結び、自然から生の祕密をさぐり、自然の中に動いてゐる愛を求めやうとした。フレーベルの教育學の背景には一種の神祕的、象徴的自然

哲學がある。

今日、フレーベルの幼稚園に足を踏み入れる者は、そこに、フレーベルが「發明」した獨得な子供の作業道具と特種な遊戲のあることを多分見出すであらう。こゝに私は二つの註釋をつけなければならぬ。即ち私は、フレーベルの幼稚園に入るものは、そういふものを「多分」見出すだらうといつた。何故かといふのに、私が七週間前に、この建物の中に催された盛大なる教育展覽會を最も深い印象を以つて見たのであるが、その幼稚園部に於てさういふものを見るこゝが出来なかつたからである。けれども、かういふことは獨逸に於ても有り得る。次に私は、フレーベルが「發明」したと云つたのであるが、これはまづいふ云ひ方である。然らば、それは何を意味するのであるか。それは先づ、球又はボール、次には正六面體、最後には紙、粒、箸、等で種々の形のものを作り、各種の刺繡を指すのである。それでは何故これが問題になるのか？その背後に如何なる意義を秘めてゐるのか？

フレーベルの根本思想は、子供は自然と共に生きてはならぬ、子供は自然の内面に入り込んで生きねばならぬ。子供は自然と合一する能力を得なければならぬ。昔の觀察に依れば自然は四つの世界から成立つてゐる。礦物界、植物界、動物界、人類界これである。人間は自分の内面を學んで始めて自然の内面を識ることが出来る。人間の魂は内面性のものである。礦物とか、植物とか、動物に就いて我々は先づ表面的形態だけを知る。しかし、これ等のものも亦内面的なものを有つてゐる。何故なら、自然のあらゆる段階に神の力が生動するからである。全自然界は唯一の神の力の一表現である。此の唯一の神の力は自然界の諸段階を通じて遂には人間の段階、終には人間の魂の段階にまで昇つてゆく。それ故に、自然は象徴的に理解しなければならぬ。自然がその各種の段階に於て守つてゐる法則は自然を産み、自然を働かせるこゝろの神の活動法則である。

人間が自分の形態を充實に到達するには、神の力が自然の諸段階を通過したところの、その種々の段階を一步一步順次に通り過ぎなければならぬ。これがフレーベルの進化思想である。彼は、元來この進化思想を最低段階の爲めに完成し、専ら教育學的に、幼稚園年齢者に應用したのである。

最低段階は礦物界で、その普通のもものは礦物であり、特別なものは結晶體である。自然が結晶體を形成するに如何に簡單な法則に従つてゐるか、又如何に正確な形態を結晶體は創つてゐるか、我々人間にまつて何時も驚嘆に堪えない。フレーベルはこのことを彼の象徴的自然哲學の中に、神の力の本質的表現といつて説いてゐる。

神の力の本質的表現の最も簡單なものは、太古の觀察に依れば、球である云ふのは、球は一の中心點から何れの方角にも全く一樣に作用するからである。神は、この球の中に最も粗朴な表面的形に於て生きてゐる。その次は正六面體である。こゝには特に三つの根本方角(三つの延長が強調されてゐる)。

同時に、新しい要素として六つの面、八つの角、十二の邊が現はれて来る。圓を四角形に結びつければ中間形の圓筒が出来る。この三つのものが一緒になりて、即ち正六面體の上に圓筒を重ね、その上に球の冠をのせたものがフレーベルの墓碑である。

此の三つの根本的形相の外に又多くの正格體があるが、これらはその樞軸を換へるこゝに依つて成立するものである。其中の多くのものは結晶界に見出される。神に充滿してゐる自然は、恰も正格的數學的形想を以て戯れてゐるやうである。自然は實地の數學をやつてゐる。私は、フレーベルの學問上の研究方面が結晶學であつたこゝを序に云つて置きたい。彼の先生ヴィッスマイフ人は、結晶の諸様相を中心線の原理に依つて整列した始めの人である。

かういつたやうなこゝは、皆教育學上の問題を甚しく離れる觀があるやうに見えるが故に、私は急いでその應用に入り

たい。フレーベルの根本思想は即ちかうである。神は自然の創造主であり、自然のあらゆる法則の創定者である。總ての子供に十分なる精神的發達をさせるには、云はゞ自然をもう一度模倣しなければならぬ。それ故に、子供が先づ最初に交渉を持つべきものは球又はボールでなければならぬ。子供のための最初の贈物は六色に彩る毬である。この毬は獨得な運動法則を教へる。この毬を或は絲につないで下げておいてもよい。もつゝ内容の豊富なのは正六面體である。この六面體について、先づ教へられることは、それが決して角ミか、又は邊では立てずに必ず面で立つまいふ法則である。子供はこの六面體の本質ミ「生の合一」が出来る迄接觸を續けなければならぬ。茲に於て、フレーベルは、「六面體は己れ自身を教へるもの」だといつて、方向を換へて考えた。この考は非常に重要な一般的思想である。即ち總ての正格體は、それを取扱ふことに依つて、基礎數學の無言の教師であることが解る。世界のあらゆる形成物は、その存在ミ行爲の法則ミを明らかに表明するが故に、我々はそれに教へられてゐる。

フレーベルが子供の作業道具ミして作つた第一の贈物は種々の六面體を入れてある六面體の箱である。その中のあるものは平板又はピラミットの形をしてゐる。積木はかういふ風に出来てゐて、子供にミつて無限なる作業手段である。こゝふのは、子供はこの材料について作業をすべきで、繪本のやうに眺めてゐたゞけではいけない。この場合に子供にミつて重要なことは實際に經驗する數字、實際に經驗する靜學及動學である。大人の建築家は、その取扱つてゐる建築材料に精神を打込んで生きてゐなければならぬ。抑々家を建てやうミする衝動ミ、人間を教育しやうミする衝動ミは互に深い關係があるやうである。

積木で三種の形式を作るこゝが出来る——即ち認識形式、美の形式、利用形式これである。例へば星の形ミか、十字形のやうなものは美的價值を有する。最後には椅子、机、門、自動車のやうな必要用具を積木で作るこゝが出来る。

それ以外のフレーベル式の子供の作業道具は、分析(分解)と綜合(組合せ)の相反したことから成立つてゐる。これらのものにも、その根本問題は矢張り萬物を支配する法則の體驗にある。

一 分析(分解) 立體から平面に、即ち卓を横へる、

平面から線に、即ち箸を竝べる。

線から點に、即ち粒を竝べる。

二 綜合(組合せ)

點から線に、即ち硝子球を絲に縛ぐ、或は點で描いた形を縫ひ合せる。

線から平面に、即ち細長い紙片を合せる。

平面から立體に、即ち紙を種々な面白い形に折る。

これが、幼稚園兒童の作業道具の基本となる「哲學的」根本思想である。子供は模造された小さい神であつて、常に自由に玩具を以て作業するやうに遊ぶが、無意識的に法則の支配を受けながら働くもので、先づ數學的法則、次に物理學的法則の支配下にある。

併し、フレーベルの教育哲學は、これだけは未だ完全とは云へない。子供が固體(物體)と交渉を持ち、生の合一をした以上は次には植物界、動物界の如き有機體の段階がなくてはならぬ。フレーベルは、この思想を完成しなかつた。けれども、彼は以上の同じ方法でこの思想の完成をしたであらうこゝが容易に考へられる。フレーベルは、先づ植物界に於ける正格數の關係に意を用ひた。たゞへば、木の葉の數とその位置。フレーベルは、この同じ原理を動物界に於いても探究するこゝが出来たに違ひない。しかし、それだけでは本來の有機體の生に彼は深入りするこゝは出来なかつたであらう。

フレーベルのイテエは多くの點に於て、ゲーテの自然科學の根本思想と相通するものがあつた。さいつても、ゲーテの植物の變形説、原形から各種の形相へ變化する植物法則説なきがフレーベルに強い影響を及ぼしたことは信ぜられない。フレーベルは、寧ろ浪漫論者達の見解を一にし、植物界に於て、人間の情緒狀態を指す象徴を認めやうとした。就中、白百合はフレーベルにまつて、純潔と靜寂の象徴であつた。情緒は、その内面的法則に従つて、中から自由に發展するので、フレーベルにまつて最高なものであつた。このやうに子供も母體から成長しなければならぬ、子供の成長もそのやうに優しい手を導かなければならぬ。この考へ方の中には一種の神祕的傾向があるが、さいつてそれは決してありふれたやうなものではない。フレーベルは、寧ろ神の創つた大地を足で固く踏みしめ、頭では神のゐる天に觸れるやうに、小さいさきから人間を教育しやうとした。

フレーベルは、それに相應しい二つの教育原理を有してゐた。先づ、彼は兒童達と共に自然の中に生きやうとした。彼はルッソーの組立てたやうな自然ではなくて、眞實な自然を兒童の教師にしやうとした。兒童は、この自然の環境を内面から習得して自然の形式と法則を意識するやうにならなければならぬ。この場合、特別に重要な役割を演ずるものは郷土の周圍に關する地質學及び地理學である。

それから、第二には、内面的理想の人間を精神の奥から取り出して來なければならぬ。キリスト教の世界では神人を「クリストウス」と呼んでゐるが、佛教で言ふ「佛陀」と同じである。内面的法則に従ひ、イエス、キリストを手本にして生きるこゝがつまりは最高の目的であつた。この最高の目的は、フレーベルに依れば、多くのクリスチャンに於ける場合の如く、自然生活と對立するものではなくて、クリストの情緒は自然の王冠であり、自然の完成であるさ見てゐる。新羅萬象は悉く神より成り、又悉く神に向かつて努力する。自然と法則の中に充満してゐる神は、それに永遠なる統一を與へて

る。「生の合一」云ふ語は、つまりあらゆる自然の段階に於て本源的神を合一することであり、神を再合一することである。自然に於ける生の過程は、内面的なものを表面化し、表面的なものを内面化するところにある。更に換言すれば、肉體に、運動に、作業に精神を表現することであり、又この表面的形態を更に精神の中に容れることである。この相互現象は、目に見える方法だけで行はれるのではない。旋律の如きものは、矢張り或程度の精神的なものを表明する。リズムに合せて體を振れば一種の精神の動きを感じる。更に進んで、世界の律動に身を合せるならば、自らの精神に尺度を秩序を感ずる。

もつゝ簡単に言へば、フレーベルの教育思想の哲學的背景は一種の萬有自然象徵論であつて、自然の各段階、總ての物、總ての本質、は悉く神の創造力の表現であり、寫繪であるといふのである。生の合一に依つて、自然のあらゆる形成物を充分に體驗すれば、神の慾する尺度、旋律、形式、法則を實現するのである。太古の思想に曰く、「自然は神の書或は數字である」云つてゐるが、これを全く同じ形の「自然は神の說話であり、言葉である」といふ説がフレーベルの哲學に還つて來たのである。フレーベルは曾てその書翰に言ふてゐる「我が創造主は、親愛なる父として、要請する法則に依り、無限なる象徴を示し、感性的なもの、超感性的なもの、中に於て我々に知らせる」と。例を擧げて云へば、植物の中でも生命の體系を表現する樹木の中に、又世界の體系を表現する四季、太陽系の法則の中にこのことを認めることが出来る。

第二

(A) フレーベルの中心的用語の「レーベンスアイニング」は日本語に翻譯することは容易でないかも知れぬ。この言葉の意味は、あらゆる生は自然の中に於て本源的に一である、といふことである。全體生活から離れた一個體の有する獨立性、孤立性は唯外觀に過ぎないのである。個體は更に普遍的生に結びついてなければならぬし、普遍的生の法則を充たさなけ

ればならぬ。この合一をフレーベルは「レーベンスアイニグング」に稱んでゐる。佛教に於ても同じやうな思想が見出される。けれども、フレーベルの云ふ「レーベンスアイニグング」は宗教的経験とか、向上した情態だけではなくて、同時に個體の生長の過程でもあり、教育の過程でもある。この本原的關係の中には、二つの本質的なものゝ最も深い關係にある「生の合一」も、それより生ずる新しい個體との輝かしい關係が共に含まれてゐる。それは即ち母と子の關係である。この生の帶は、中世紀のキリスト教に於ては聖母マリヤと幼兒キリストの姿に理念化されたのである。キリスト教的畫壇に於ける最高の作品も、文學に於ける最上の詩歌も皆、神人一體の神祕に關するものであつた。來世への生の認識が現世への生の認識に、漸次其地位を譲つてゐる際、宗教的なもの、形而上學的なもの、神祕的なものを、母と子の關係に固執したものはペスタロッチとフレーベルであつた。就中、フレーベルは形而上學的説明に終始した。母と子の産む子は互に言葉を用ひずによく理解する。母と子の間には強い生の帶がある。母子間の最初の交渉は音樂的、旋律的である。此の二つの魂の中には同じ旋律が動く。この連結は言葉よりもつゝ早く、概念よりもつゝ早い。フレーベルの天才は、彼が男でありながら、この母子間の無言の生の關係を看破したことにある。フレーベルの哲學は、母子間の生の感覺にある、尤もこれは、言葉と哲學用語に移しての云ひ方である。母の心臓は子の心臓と一緒に打つ、子は母の優しい態度に、もつゝ深い意識を感知する。母の素れてゐる感情は子供の發達を妨げる。母の情緒生活の柔かい旋律は子に移る。教育家、フレーベルは、この言葉のない最初段階に於て既に最初の教育に著手せんとした。この初期教育は未だ音樂的、旋律的であるに過ぎない。「母の愛歌」の中に於て、フレーベルは、先づ手でやるやうな、母と子が各肢體を動かして、音樂をやる事を母に教へる。この音樂的遊びはその都度、文學的には餘り價值のない簡單な詩句を云つてやる。それが濟むと次には他詩句が続くといふ具合にやるのであるが、この詩句は母にまつて、子供との接觸の最も深い象徵的意義を暗示するものである。

フレーベルは、その書翰の一節に特に強調して、「子供が象徴的生活關係を薄々感知してゐることを私は確信する」。このことは、總て言葉に先立つころの「レーベンスアイニグング」(生の合一)といふフレーベルの思想に依つて理解出来る。茲に、フレーベルは又母の教育家にならうとする。彼は母の概念を深めてゐる。母はその子の生活を肉體的ばかりでなく、靈的、精神的に發達させるべきことをフレーベルは教へる。

斯ういふことも、彼の廣汎なるプログラム(計劃)の單なる一部分に過ぎない。彼の最後目的は女子を教育者になるやうに教育することであつた。女子の愛をして、人間教育の爲めの力になるやうに發展せしめなければならぬ。愛は女の天性である。女の愛は總ての人間生活を包含するのに反して男の天才は常に限られて一定の方面に作用する。女の有する教育的愛の力を發達させやうとフレーベルは企圖した。「キンダーガルテン」即ち幼稚園といふ名稱は元々、前に述べたやうな子供作業道具即ち玩具を子供達に頒つために出來た婦人會を稱したのである。それから後になつて、「キンダーガルテン」云ふ名稱は、小學校に入る前の兒童を教育する施設を云ふのに使はれた。幼稚園は託兒所とは其趣きを異にしもつて深い意義を有するものである。

元來フレーベルが問題にしたのは、國民のために母を教育することにあつた。此の點が又、彼の國民教育事業になせる大貢獻である。子を産む女は悉く母である。然るに、女子は果して、そのもつて深い本分を責任を常に意識して居ることは云へない。フレーベルは、母の情緒をして、世界の深奥な神秘との關係を意識せしめるやうに啓發せんとした。未だ母にならない女子は國民幼稚園で働くことが出来る。私は茲に「幼稚園哲學」でも稱すべき思想に就て論じた。この種の哲學は兒童の活動衝動を自然の根源層から探究するものである。モンテツソリー夫人も亦兒童の自發的活動の爲め效果的に努力したのであるが夫人は主として感官訓練と判別の訓練に力を注いだ。モンテツソリー夫人の見解に依れば、感官は

物を質を知覺するに止まる。しかるに、フレーベルに依れば感官は更に、隠れたる物の魂をも解明するのである。モンテッソーリ夫人は、學ぶまいふこゝを前提にしてゐるに反して、フレーベルは兒童の遊びは人間教育にまつて測るこゝの出来ない價值があるを強調する。子供の時に自由に遊んだもののみが事物を生を共にし、後には事物の法則を完全に識り且つ感ずるやうになる。此の自由な遊びの中に、子供はやがて、永遠の必然性、法則性の眞剣さを知る。「何故なら、法則のみが汝等に自由を與へるからである」。ミ詩人シュラーの云つた通りである。ゲーテもカントも同じ思想を持つてゐた。これこそは獨逸理想主義の根本思想である。これを今の我々の場合に應用すれば、母と女は、自然の永遠的法則に従へる人間生活の永遠な法則の保護者であり且つ獨逸婦人でなければならぬ。

(B) フレーベルは婦人の生活、婦人の愛、婦人の情緒に就いて非常に繊細な理想を持つた。このこゝは、一九三五年始めて發表された彼の有名な「婦人に與ふるの書」が證明する。けれども彼は又全くの男であつた。一八一三年ナポレオンに反抗する獨逸獨立戰爭に彼は義勇兵として參戰した。彼は又、獨逸國民に始めて深き國民意識を與へたころの、あの獨逸の大哲學者フイヒテに多く學んだ。フイヒテ自身も亦教育の大天才であつた。フイヒテは、子供を、家庭ではなく、國家に屬せしめようとした。然るに、フレーベルは寧ろ生の大法則にもつゝ近寄つてゐたのである。フレーベルは、子供が後日國家の爲に盡すのには、先づ始めは完全に家庭に屬せねばならぬまいふこゝを知悉した。まいふのは、國民は結局家庭の上に立つものであるからである。フレーベルは、民族は、土地及血を不可分關係にあるこゝを知つた。フレーベルは獨立戰爭から歸つてきてから、その郷里チューリンゲンに小さい學校を建設した。この學校は今日で云へば、一種の田園教育舎でも稱すべきものである。この學校の主なる職員は、フレーベル自身の家族であつた。しかし彼はもつゝ大きな國民教育所建設の計劃を考慮してゐた。この國民教育所は、家庭教育の原則にその基礎を置き、更に、自然を生を共にす

る生活原則、創造的、自發的活動と生の合一の原理に基くものである。如何にして、人間教育の思想と國民教育の思想とが互に相結合したかが、私の今まで述べたことで理解されると思ふ。フレーベルの名著は、一八二六年に出版された「人間教育」の表題で呼ばれてゐる。フレーベルはこの著書に於て永劫の形而上學的背景即ち神、自然、人間、生の合一、發展等について詳細に説いてゐる。如何なる國民と雖も、このやうな永遠的生の法則を輕視することは出来ない。各國民は、各自の立場からこれに對する各自の象徴を創るであらうし、各自の神話、各自の歴史、傳統、各自の國民性を護るであらう。けれども、統ての健全なる國民教育に缺くべからざるものは、家族原理、母の高貴な天職、自然の生の法則への從屬、神性の遺傳である。

フレーベルは遂に、自分の教育理想の一部分しか完成出来なかつたのは全く彼の運命であつた。彼は、教育史の中に、幼稚園の創始者として、又もつゝ高い教育精神のための女子教育家として生きて居る。彼は又、小學兒童及小學校卒業程度の年齢者のために事業を完成しようとしたが出来なかつた。フレーベルの門弟の婦人連が、彼の思想を後日に傳へたり、諸外國に普及したりした。其の中の或者は、フレーベルの思想の、或部分をもつゝ嚴密に體系つけた。この婦人連は、それに依つて、獨逸の婦人運動の中から、溫き國民教育精神に溢れる處の一分派を創つたのである。この精神を稱して、婦人の有する人間助成の天職と云つた。

(C)この婦人運動の指導精神は、婦人が家庭にあつて建設的に支持的に活動するその力を其の儘國民全體に移さうとするこゝにある。この理想をもう少し詳述すれば、自國民文化に於けるこの種の職業を婦人にも開放して、國民文化のため缺くべからざる婦人の特殊の本質を有効に働かせるこゝである。茲に云ふのは、平等といふ抽象的獨斷論に基く、男に對する婦人の對抗を意味するのではなくて、寧ろ自然が慾したこゝろの男女間の性質と能力の相異を特に強調したのである。

自然が生を作るのは、自然が既にそこに個性を慾するからである。婦人の特殊的能力が最も效果的に活動する最重要部門は、教育、保健、社會事業等である。獨逸に於ける、こゝいふ方面の婦人運動の發展は次の如き經過をたぎつた。即ち、一八六〇年以降、家庭教育、國民教育のための會が各地に出來た。かの會は民衆の爲、殊に産業労働層の爲に幼稚園を建てた。あるものは、又保育學校の様なものも設立した。かう云ふ施設の中で最も有名なのは伯林の「ベスタロッヂ、フレール、ハウス」である。これはフレールの姪の力で出來たものである。幼稚園保姆の職業は、後には保護員と少年保護員と云ふやうな、もつと上級のなものが出來た。少年保護員は、少し年の多い少年を保護するやうになつた。所謂「少年保護」問題は益々その重要性を加へる社會教育學の主要なる一部分をなした。我國に於ては、「少年保護」事業は、家庭と學校の仕事を補ひ且助けるところの國民教育の反面だを解する。「少年保護」は最初は貧困階級のためであつたが、後には、特に大都市にあつては、發達期にありながら非常に困難なる、就中小學校出の少年の爲に働いた。少年保護と「少年救済」は違ふ。「少年救済」は既に危険になつて居る少年を云ふ。少年を危険にするものは、棄れた家庭關係、惡健康狀態、惡環境、又は惡性遺傳性等である。大都市に於けるこの方面の教育、救済の爲には、家庭の力が消失すればする程、もつと必要になつて來るのである。この種の救済は、また多數の大人にも必要であつた。この事業には婦人が最も適當であつた。婦人のなした社會救済事業は、或は經濟的救助に、或は衛生的救助に及んだ。斯様にして、社會救済、福利事業の方面に於ける婦人の職業が出來たのである。かういつた婦人の職業を授ける學校が世界大戰直前、伯林の「ベスタロッヂ、フレール、ハウス」の隣に出來た。この學校は始めは、女子社會學院と稱し、後には福利學校と稱した。これと同じ施設が各地に急速度で發展した。これに、家政教員養成所を加へる、もう三種の女子の高等職業學材が出來て居る、即ち嫁婦、少年指導員を養成する學校、女子社會學院、家政教員及び手工教員養成の學校これである。

小學校教員を養成する女子師範學校は、この方面の婦人運動に屬しない。女子師範學校は、以上のやうな各學校よりも歴史が古いし、また獨立的に發達したものである。婦人運動の他の派に屬するものに於ても、同じく女學校教員ミカ、女醫などは大學で勉強をすることを前提とした婦人の職業であつた。抑々婦人に對して大學の門戸を解放したのは一九〇八年、普魯西に於てである。けれども女子大學を建てやうとした思想は、それよりもつゞき以前から擡頭した。フレーベルの甥の一人の如き一八五〇年ハムブルヒに於て、この計劃を進めたこゝがある。この計劃は後にはライプチヒ、ベルリンに於ても進められたが不成功に終つた。

女子大學建設の思想自體は正しかつたし、又效果的であつた。ライプチヒに於ては、醫學方面、社會的方面、教育方面の女子の高等教育機關を計劃した事もあつた。一九一一年には、短時日ながらライプチヒに女子大學が設立され、これには三つの科ミでも言つたものが設けられた。即ち、保姆及保導員のための教育科、副利助成員のための社會科、病院の看護婦長の爲の醫科これである。フレーベルを繞る人達の最後の目的ミして計劃した事があの通り失敗した後は今日に到るも尙實現されない。所謂、母性學校は一九三三年以來數學的に非常に増加して來た。けれども、この方面に關する種々の經驗を固執したり、普及したり、養成したりするやうな最高の學校が未だ無い。

吾人が今住んで居る時代は、一流の諸文化國が、國民の生存が果して如何なる建設力にかゝつてゐるかを意識し始めた時代である。國民生活の爲の永遠なる生活法則を研究し、國民を危くする危險を認識し、國民生活を幸福にする積極的方法を認識してゐる。計劃的に、民族衛生學ミ優生學に關する實際的規定を設けやうとする。同時に又、民族保健のため、遺傳病豫防のためには産兒制限の必然性を知るミ共に、その反面故意に依る産兒制限が如何に慎重な考慮を要する問題で

あるかをよく理解して居る。我等は、この大きな、日一日に進歩を續けてゐる事業部門を「民族保護」と名づけた。茲に於て、この大事業のため各自民族の母と女が大いに参加すべき事が解される。ベスタロッチとフレールの思想を今日になつて始めてその重要性を本當に理解する様になつた。家庭の神聖は西歐にもあり、殊に民族社會主義國としての獨逸に於ては家庭の神聖を確認して永久に忘れまいとしてゐる。フレールは女子教育、國民幼稚園、國民教育についての自分の思想を、先づ特別な教育學的課題からして有效な衝動を與へた。フレールの播いた種は今ではもう大きな樹になつてゐる。この樹が健全なる成長を續けるためには、常に手入れが必要である。

私は唯今、種々な點に於て我が獨逸人の模範とし且つ驚歎措く能はざる皆様の御國に於て、自分の同國人フレールについて只今御話致しました。我等獨逸人は、就中日本の家族生活の偉大さ美しさを感じ且つこの家族生活の基礎の上に築かれてゐる日本の政治的鞏固さに對し驚歎に堪えないものである。この基礎は宗教的に神聖化されてゐる。我々獨逸人は、日本の全民族家族、全國民の最高の位に在す陛下に對して謹みて國民の將來益々盛ならんことを希ふと共にこの難局にある現在の闘ひに光榮なる成功を得せしめられんことを祈るものである。

今この講演を終るに當つて、私は皆様がこのフレールに關する所説を快よく御聽取下さつた事を御禮申上ると共に、現在民族の大生活法則と時代に適した民族保存のために、眞剣の努力を試みて居る日獨兩國民族が私の今取扱つた問題に於て共通の重要點の存することを確認し得ることを信するのである。